

福祉の輪 拡げたい



社会福祉法人
緑友会

ホームページ

緑友会

検索



伊勢原市の歴史・文化を語るストーリー“江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～”が、平成28年4月25日付けをもって日本遺産に認定されました。(関連記事:ピックアップ4)

【主なストーリーの構成要素】



※日本遺産とは、平成27年度に創設された制度で、日本の歴史や文化を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

2020年までに全国で100件程度の認定が予定されています。



比々多神社



大山寺



大山阿夫利神社



宝城坊・日向薬師

第27号の内容

日本遺産「大山詣り」

..... 1

NEWS 1～11

..... 2・3

ピックアップ1～7

..... 4～7

新もろさんが行く

..... 8

《ストーリーの概要》

大山詣りは、鳶などの職人たちが巨大な木太刀を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝である。そうした姿は歌舞伎や浮世絵にとりあげられ、また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心を呼び起こし、江戸の人口が100万人の頃、年間20万人もの参拝者が訪れた。

大山詣りは、今も先導師たちにより脈々と引き継がれている。首都近郊に残る豊かな自然とふれあいながら歴史を巡り、山頂から眼下に広がる景色を目にしたとき、大山にあこがれた先人の思いと満足を体感できる。

NEWS 1 映画撮影が行われました！



本厚木ふたば保育園

10月13日、本厚木ふたば保育園で今春公開映画『便利屋エレーゼ』の撮影が行われました。ダレノガレ明美さんや若い有名な俳優さん達を生で見た職員は『さすがに綺麗だった』とか『イケメンだった』と笑顔。良い思い出になりました。

~~~~~

## NEWS 2 ハロウィンで、大盛り上がり！



### みどり園

11月15日、伊勢原平成ロータリークラブ（小山輝彦会長）の皆様のご理解とご協力により盛大にハロウィンパーティーが開催されました。衣装等を寄付いただきましたので、毎年楽しく開催させていただく予定です。ありがとうございました。

## NEWS 3 出産！ 出産！ 出産ラッシュ！ おめでとうございます！（五十音順）



甲斐 葵ちゃん 小西 一樺ちゃん 佐藤 零恩くん 曾根田 勇磨くん 依田 侑真くん 渡邊 綾哉くん

伊勢原ふたば保育園では保育士と事務員の合計6名が、一昨年9月から昨年8月までの間に出産という大変におめでたい1年間になりました。更に育児休暇が明けた後は全員が職場に復帰していただける

という嬉しい話も。良い話なのですが不在の間は管理職達や看護師も保育に加わったり派遣保育士を確保したり。素晴らしいチームワークで責任ある保育を行い、思い出に残る1年です。

~~~~~

NEWS 4 表彰されました！

社会福祉関係功労者表彰

感謝状	秋本 秀美	みどり園：副施設長
感謝状	菅原 敦	清川ホーム：施設長
表彰状	押田 隆則	清川ホーム：主任
表彰状	杉崎 秋仁	つくし相談室：主査
表彰状	池田 雄二	みどり園：主査

知的障害者福祉事業功労者表彰

表彰状	石田 英弘	アリオ`エルデ：施設長
表彰状	平田 栄孝	みどり園：施設長
表彰状	佐藤順一郎	清川ホーム：副施設長
表彰状	高橋 洋子	清川ホーム：栄養士

NEWS 5 防犯訓練を各施設で実施！

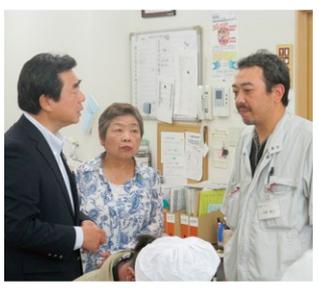


本厚木ふたば保育園

清川ホーム

津久井やまゆり園での殺傷事件を受け、法人内各施設では伊勢原と厚木の両警察署のご協力をいただき不審者対策の防犯訓練を実施しました。防犯設備の拡充も今後、実施予定です。

NEWS 6 鈴木秀志県議が視察に！



つくし

横浜市鶴見区選出の鈴木県議（前副議長）が山本一恵前伊勢原市議とつくしを視察されました。鈴木県議は欧州各国の福祉を大変に良く研究され日本国内で優れた福祉を実現するため熱心に活動中で、視察先に選ばれたことは大変な名誉です。

NEWS 7 全国障害者スポーツ大会で入賞！



タウンニュース伊勢原版
平成 28 年 10 月 14 日号掲載

みどり園・つくし相談室

堀越よし子さんと戸部千夏さんが 10 月に岩手県で行われた全国大会に神奈川県代表として出場し、戸部さんが 100 m 走 1 位、立幅跳 2 位。堀越さんがボウリング 5 位と素晴らしい成績。立幅跳では日本新記録も樹立したそうで感激されていました。

NEWS 8 トピックスで活動を見やすく！

2016年11月28日

ミニクローラ導入！

今年度、ミニクローラを導入しました。ミニクローラ生成水とは、手指の除菌や、テーブル、ドアノブ、車椅子の除菌等に使用でき、作成には、水と塩のみというコストも大幅に削減出来る画期的な機材です。今後、上手に活用していきながら、利用者さんや清川ホームの衛生面等に役立てていきたいと思っています。



清川ホーム

保護者の方より『他施設のようにホームページに活動をアップして』という要望を受けて新たにトピックスページを増設しました。写真撮影からアップまで全て職員の手作りです。ご覧下さい。

NEWS 9 先生が実習をして下さいました！



アトリエヴェルデ

伊勢原養護学校の先生方（岡部・当摩・勅使河原・今村・保田の各先生）が夏休みの間に各 1 日作業支援の実習をされ、職員は穏やかな接し方等大変に学ぶことが多かったと感謝していました。

NEWS 10 各施設毎の年賀状に！



法人全体

昨年までは各施設統一の年賀状でしたが、今年は施設毎に年賀状を作成することとし、お世話になった方々に感謝の心を込めて送らせていただきました。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

NEWS 11 今年も楽しく職員交流会！



法人全体

11月18日、職員交流会が本厚木駅近のシークレットバンクエで開催されました。委員会でアトラクション内容をつくり大変に盛り上がりました。年度内に更に企画があるかも知れません。

ピックアップ1

日常の中の体力作り（清川ホーム）

清川ホームでは、入所されている利用者の皆様が積極的に体力作りを行えるよう様々な場面において支援をさせて頂いています。清川ホームでの様子の一部をご紹介します。

毎朝、職員のミーティング後に職員と利用者の方々と一緒にラジオ体操を行っています。ラジオ体操を始めたばかりの頃はぎこちなさもありましたが、今は大分習慣化してきており、利用者の方々も楽しみながら体操をしています。

体操が終わると日中活動の時間が始まります。晴れた日には園庭に出て、車椅子の方は日光浴を、重度の方は園庭を職員とともにウォーキングをしています。軽度の方は、数人が一緒になって地域周辺を散歩します。秋は、年間を通して過ごしやすく散歩に適した気候となります。清川ホームは自然豊かな場所に立地しており、紅葉していく山並みを見ながら散歩することはとても気持ち良いものです。大半の利用者様は、外に出ることを好まれており、坂となっている清川ホームの入口から園庭の玄関までを歩くこともよい運動になります。

また、建物内でも食事の際に1階から地下にある食堂まで階段を利用したり、最上階の3階まで階段を昇り降りされたりするなど階段の昇降を行う習慣も体力作りや体力維持に繋がっているようです。これからも日常の生活場面や日中活動に運動する場面を組み込み、これらを習慣とした体力作りを重視していきたいと思えます。

大切な事は、毎日の積み重ねだと実感しております。利用者の方々、いつまでも健康に過ごして頂けるように、今後も様々な工夫をして「日常の中にある体力作り」を提供していきたいと思えます。

（清川ホーム 施設長 菅原 敦；主任 谷田部 和子）



ピックアップ2

安全な避難に向けた訓練（伊勢原ふたば保育園）

保育園では、毎月必ず様々な時間や災害を想定した避難訓練を行っており、繰り返し訓練を行うことにより子ども達も災害に対する対応ができるようになってきました。

しかし、実際に大きな地震が起こった際に、素早く机の下に隠れることは難しいことです。その為に子ども達には大きな地震が起こった際のイメージをしっかりと伝え、様々な場面に対しても素早く対応できるように訓練しておく必要があります。例えば、窓ガラスが割れたことを想定した場合には、いつもと同じ避難経路では避難できないかもしれません。それをイメージしやすいように、園では卵の殻を使用してガラスが飛散している状況を作ることで、実際に見て、触れて学び、子ども達がイメージしやすいように働きかけ訓練を行っています。また、午睡時に地震が来たことを想定した場合には、避難するときは自分の上履きを探すのではなく素早く近くの上履きを履いて避難できるように訓練しています。このように様々な場面に対応できるように日頃から訓練しておくことが大切であり、毎日の保育の中で防災について子ども達に働きかけていくことが重要です。また、園内の危険な場所を把握し、事前に落下物等の危険がないように対策を行い、子ども達にも地震が起きた際の安全な場所、危険な場所を理解できるよう働きかけ、共有していくことも必要です。

子ども達と共有するために、落下が想定されるものに対してステッカーを貼ったり、子ども達が災害の際自ら身を守り安全な避難が出来るようにしておくことも大切な対策の一つであると思えます。子ども達が自分の力で安全な場所に移動し、自分の身は自分で守れるよう教育していくことは保育士の役割の一つでもあると考えます。実際に災害が起こった時に、どんな状況でも慌てず安全に避難し大切な命を守れるよう、私たちはしっかりと対応できるように日頃の避難訓練を一つひとつ意味のあるものと意識して取り組んでいきたいと思えます。

（伊勢原ふたば保育園 主任保育士 青沼 亜沙美）



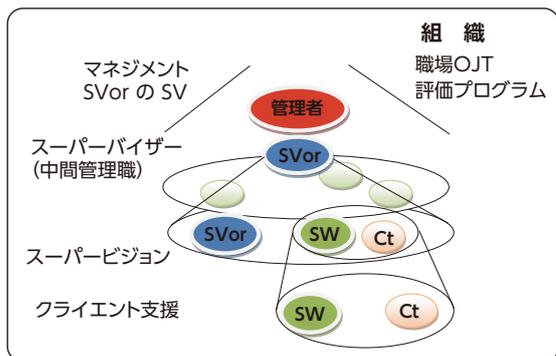
ピックアップ 3

☑ スーパービジョン体制をめざして（つくし） ☑

現在、つくしでは、「職員が育つ」「職場が活きる」ことをめざし、スタッフが順番に、スーパービジョン研修に参加しています。

スーパービジョンとは、対人援助を行う施設や事業所等において、専門職としての援助者の養成、業務全般の遂行をバックアップするための確認作業です。利用者に対して質の良い支援を提供するためには、あたたかみを持って援助者を支える「支持的機能」、教育・育成を行う「教育的機能」、環境を整える「管理的機能」といった3つの機能を職場に取り入れることが大切です。この3つの機能をしっかり意識してスーパービジョンを重ね、援助者が安心して業務、支援に取り組み、連携を取り専門職としての成長、資質の向上を図っていきたいと考えています。

組織におけるスーパービジョンの仕組み



研修を踏まえた実践では、業務の中でスーパーバイザー（スーパービジョンを行う者）が、スーパーバイジー（スーパービジョンを受ける者）と2回の面接を行いました。1回目の面接では、スーパーバイジーの目標、課題、悩み等を聴かせてもらい、対応や解決策を話し合う有意義な時間になりました。2回目の面接では、1回目の面接で話し合った目標や課題を日々の業務、支援の中で意識して取り組んでいるのがスーパーバイザーにも伝わり、スーパービジョンの成果を実感することができました。まだ2回の面接ですが、相手の思いを聴くこと、共有することの必要性と大切さを感じました。

まだ、全ての職員が、スーパービジョンの意味を理解できていないのが現状です。言葉だけが独り歩きしないように、研修で学んだことを復習して自分自身の知識・技術を高め、一人ひとりの職員が安心して働き、より良いサービスを提供できるようにスーパービジョンの活用に努めていきたいと思えます。

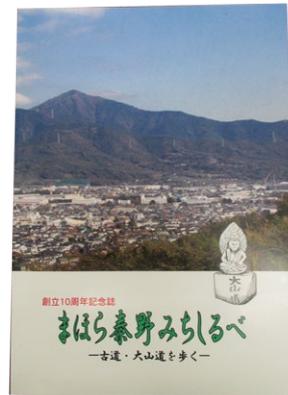
（つくし サービス管理責任者 永瀬 慶司）

ピックアップ 4

☑ 日本遺産を感じて下さい。「古道・大山道を歩こう」 ☑

先日、知人から、まほら秦野道しるべの会が創立10周年を記念して発行した「まほら秦野みちしるべー古道・大山道を歩くー」を頂戴しました。私が3年程前に購入した同会発行の「イラストマップ」は、資料をホチキス止めにしたハンドメイドの冊子でしたが、今回の記念誌は立派に製本された書籍として、会員の皆さんの活動の成果をまとめ上げたものでした。秦野市内を通る4本の大山道と道標等が写真、イラストマップなどを添えて解りやすく説明されています。

大山は、江戸時代に石尊大権現を中心とする信仰の地として栄え、江戸中期には富士詣りと並び、庶民の間で大山詣りが大流行したという歴史ある山。その大山を目指して参拝者が通った古道が大山道です。大山道は、関東一円に放射線状に広がり、「柏尾通」「田村通」「八王子通」「府中通」「羽根尾通」「六本松通」「矢倉沢往還」などの代表的なルートがあるとされています。



伊勢原市教育委員会発行の「伊勢原市内の大山道と道標」にも大山の歴史と市内の大山道と113基もの道標について報告されており、大山道の歴史が驚くほど深いことを知ることができます。

そして、今、神奈川県第4の観光の核づくりに認定された大山、日本遺産として認定された大山、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に1つ星として紹介された大山等々、再び大山が注目されています。



私たちの身近にあり普段何気なく眺めている大山ですが、皆さんも、いにしえの大山道を訪ね歩いてみませんか。きっと新たな発見と驚きを感じることができると思います。最近、太りすぎの私も戴いた記念誌を手に運動不足解消と大山の歴史を学ぶ一石二鳥のウォーキングに出かけたいと思います。皆さんも「いざ、大山へ」。

（総務部長 小林 博己）

ピックアップ5

喜ばれる食事を提供（調理担当者会議）

一昨年6月に、みどり園の調理場の改修工事を行いました。3週間という長い工事期間中も利用者さん達への食事は提供しなければなりませんので、工事中の調理はキッチンカーを活用しました。キッチンカーはイベント等で屋台として使うもののため、一度に大量の食事を調理（みどり園では最も多くて100食超）する為にはどう対応するのか、調理スタッフ皆で支援員と話し合いました。

ご飯を炊くのはどうする？ 配膳は？ メニューは？ 等々、様々な課題がありましたが、一つひとつクリアしてキッチンカーでの調理に臨みました。

結果的には、毎日炊き出しをしているようで災害時の訓練をしているみたいでした。キッチンカーの中では暑さとの戦いもあり大変でしたが、スタッフ皆楽しみながらでき、利用者さんにも大きなトラブルもなく終わることができたと思います。

改修工事は、下膳カウンターの新設や洗浄ラインの効率化を図るほか、空調設備、調理機器の入れ替えなどを行いました。また、新しくスチームコンベクションを導入しました。この機器は、蒸す・煮る・焼くといった調理工程を1台でこなしてしまうものです。例えば、オーブンで肉・魚を高温の中、長時間加熱して調理すると、食材の水分が蒸発しパサパサになってしまいますが、スチームコンベクションはオーブン内に蒸気を入れ、食材をコーティングし水分を閉じ込め、同時に旨みを残しながら調理できるという優れたもので、「今日の魚は硬かったね。」という声も聞かれなくなりました。

利用者さんの中には高齢になり噛む力が弱い方もいられますので、やさしい食事になれば良いなと思いながら調理している毎日です。これからも利用者の皆さんに喜んで頂ける食事を提供していきたいと思います。

（みどり園 調理員リーダー 畠山 英幸）



キッチンカー



調理場（改修後）

ピックアップ6

食事は楽しみながら健康志向で(栄養担当者会議)

清川ホームでは、現在、53名の方が生活されており、年齢も18歳から78歳まで幅広く、平均年齢は47.1歳という状況です。平成元年の開園当初は、若い方が多く、食事の個別対応も数名のおかゆときざみ食程度でした。しかし、月日の流れとともに、ミキサー食が入り、高齢化に伴い平成21年から、とろみ食が加わり、平成23年からは、摂食・嚥下が困難な方に口から食べる楽しみをいつまでも続けていただけるようにソフト食も提供しています。

ソフト食とは、ペースト状にした食材にテクスチャー改良剤（ゲル化剤）を加えて固め、もとの食材、献立に近い状態に形作った物で、普通食に近い見た目、食材の味を楽しむことができる食事のことです。舌でつぶせる固さで、口の中でまとまったままつるりと飲み込めますので、むせこみが少なく誤嚥性肺炎を予防することができます。そのため、厨房では毎日試行錯誤を繰り返しながら、ソフト食作りに奮闘を続けており、利用者の方々が楽しく食事をされ、健康維持に資するよう努めています。

話は変わりますが、昨年、16年ぶりに食生活指針の改定が行われました。1日の食事のリズムから健やかな生活リズムを身につけ、適度な運動と主食、主菜、副菜を基本にバランスのよい食事を心がけ、普段から体重を量り、食事量に気をつけ、適正体重の維持に努めることが重視されています。また、食塩は控えめに1日男性8g未満、女性7g未満、脂肪は質と量を考え、たっぷり野菜と毎日の果物を忘れず、牛乳、乳製品、豆類、魚なども組み合わせ、限られた食料資源を大切に食品ロスのない食生活の工夫をすることも呼びかけられています。

日々、忙しいと思いますが、私達の生命を維持している大切な毎日の食事ですので、味わいながらゆっくりとよく噛んで、楽しんでいきたいものです。そして、食品や外食を選ぶ時、栄養成分表示を見る習慣を身につけていきましょう。

最後に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されていますので、日本の誇りである「和食」をはじめとした日本の食文化、郷土の味を大切に継承していきましょう。



（清川ホーム 栄養士 高橋 洋子）

日々の業務を執行していく中では、法人外から届いた文書、法人外へ出す文書、内部の記録文書など様々な書類、文書に出会います。その中で、時としてその内容が意味不明で理解に悩む文書に出会うことがあります。日付が違っていたり、タイトルと内容が違っていたり、また、誤字・脱字のある文書、発信者の伝えたいことが分からず複数の解釈ができる文書等々、そんな文書に出会うことがあります。

昔(?)と違って、今は何をすることも便利になってきました。以前は、書類を作成するにもその都度手書きで作成したり、計算をするにもその都度そろばんをはじいたり、電卓を叩いたりしたものです。ところが、今はパソコンがあれば文書作成や計算などが簡単にできるようになりました。

パソコンのワープロソフトを使えば簡単に文書を作成できますし、表計算ソフトで複雑な計算も簡単にでき数値を入れ替えてもすぐに再計算してくれるようになりました。またデータベースソフトがあれば様々なデータの蓄積・分析・活用もできるようになりました。このことを思えば、以前と比べて段違いに業務が楽になったと思います。

表計算ソフトを使って計算した場合は、入力した計算式を確認する意味でも縦計・横計が合っているかチェックすることが必要ですし、複数の表を作成した場合は表間突合を行ってチェックすることが必要になります。自分なりに検算するポイントを見つけておくことが重要です。

文書作成に限って言えば、以前はその都度、内容をチェックしながら手書きで文書作成をしていましたので前述のような間違い文書は少なかったと思います。ところが、今は作成した文書をパソコンに保存しておき、その保存してある文書を読み込んで修正すれば新たな文書が作成できるといった手軽さ故に起きる間違いがあります。

表計算ソフトの要点
自分なりに検算するポイントを見つけておくこと。
文書作成のポイント
以前の文書を活用する場合は修正漏れがないか確認するとともに、読み返して確認すること
校正の要点
作成者以外の人に校正を。校正理由を理解し進歩に。
さらに基本は
作成した文書で意図を完全に伝えられるかも重要



便利さ故に落とし穴があることや便利さの裏側にあるトラブルに注意する必要があります。例えば、以前の文書を活用して新たな文書とするときには、修正漏れはないのか、内容に間違いや問題はないのかななどを良く見つつ、修正後の文書を改めて読み返して確認することが重要です。加えて、ワープロの変換誤りなどによる誤字脱字はないのかななどを確認しつつ、文書全体を校正することも大切です。校正は、文書作成者自身が校正することもあります。ほかの人に校正してもらうことも重要なことです。その際、ほかの人の校正で訂正された部分について、なぜそう訂正されたのかを考え、理解することも重要です。ほかの人の校正を自らのものとしなければ進歩はありません。

単に以前の文書を模倣することで終わるのか、以前の文書を糧として自らの技量を高めるのか、ひとつの文書を作成することを例にとっても自己研鑽に繋がることを考えながら業務に当たっていくことが重要ではないでしょうか。

また、作成した文書の内容で作成者の意図が完全に伝えられるかも重要です。作成者は伝えたい内容を文書にする訳ですが、それを読んだ人に作成者の伝えたい内容が正確に伝わらなければ意味がありません。その文書を読んだ10人が10人とも同じ理解をしてくれるのか、自分の意図と違った理解をされるような内容になっていないか、再確認することも必要になります。読み返しもしない、校正もしないでプリントアウトして文書作成終了では後々大きな問題にもなり兼ねません。後々誰かがその文書を見た時、何を言いたい文書なのか、何の記録なのかを正確に伝わらなければ意味がありません。自分だけが承知していても何の意味もないことは明らかです。

何の文書を作成するにしても、読んだ人に自分が言いたいことを正確に伝えるにはどのように書けば良いのかを意識し、その文書を読む側の視点に立って文書作成に臨みたいものです。

新もろさんが行く

一昔前は、パソコンといえば業務用が中心で、マイクロソフトオフィスを中心に文章の作成、表計算、プレゼンテーションにも重宝しました。

マイクロソフトが Windows なる OS ソフトを普及させたおかげで日本語の入力が快適になり、1995 年の Windows95 に始まり、その後に WindowsXP が発売されました。この OS は素晴らしく、2001 ~ 2007 年まで 7 年間にわたり一線で活躍しました。しかし、セキュリティに弱点があって打ち切られ、Windows7 のパソコンが発売されました。その後は使い勝手がすごく悪かった Windows8、Windows8.1 となり、多くのユーザーは一齐にマイクロソフト嫌いとなってしまいました。

その後、マイクロソフトも戦略を変え、昨年からは Windows10 なる OS を既存の Windows7 以降のパソコンには無償で提供することとなりました。

「もろさん」も暫く様子を見ておりましたが、仕方なく旗艦のパソコンを Windows10 へのアップグレードを行いました。

様々な製品が販売され、もはやパソコンは個人の情報元ツールです。例えば、写真の Windows10 の「タイル」をクリックするだけで、「ニュース」は文章のほか写真や動画のニュースがすぐに見られますし、「マネー」タイルは日経ダウの詳細が見やすいグラフで、また「伊勢原市の天気」では、詳しい情報が得られて感心します。

ほかにも「メール」「LINE」等々便利です。そして、簡易パソコンは仕事用を離れ、個人情報の情報源として活躍しています。

最後に、アップグレードを実行する前に確認する注意事項を。

マイナーなソフトで Windows10 への対応がなされていない可能性があったら、必ずメーカーに確認を取ってから進めてください。ソフトが動作しなくなり大事な仕事が止まってしまうことがあります。

また、ウイルス対策のためか、プログラムを更新した際の起動時に思わぬ時間が掛かることもあり、イライラがつのることもあります。

(もろさん：広報担当理事 諸橋 晃)



編集 後記

当法人では、本誌「緑友会通信」に加え施設ごとにホームページを発信しております。

<http://www.ryokuyukai-1980.jp> 又は「緑友会」で検索を行い表示される、社会福祉法人「緑友会」をクリックしてご覧頂けます、また各施設へは、このページからリンクをしております、ご利用下さい。

「福祉の輪を広げたい」第27号

発行：2017年1月

発行責任者：岩崎尊之（理事長）

編集責任者：矢作政行（総務局長）

事務局：社会福祉法人緑友会 総務部
伊勢原市伊勢原 3-6-7

Tel 0463-73-7221

印刷：カサハラ印刷株式会社
伊勢原市白根 475-1

社会福祉法人緑友会 各施設のご案内

社会福祉法人緑友会 本部・総務部

伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-73-7221

障害者支援施設 **みどり園**

伊勢原市栗蓬605-1 Tel: 0463-93-4722

障害者支援施設 **清川ホーム**

愛甲郡清川村煤ヶ谷3293 Tel: 046-288-2911

認可保育所 **伊勢原ふたば保育園**

伊勢原市高森1391-3 Tel: 0463-92-6226

認可保育所 **本厚木ふたば保育園**

厚木市田村町7-3-2F Tel: 046-295-2525

知的障害者
グループホーム **げんき家**

伊勢原市桜台2-16-25-201 Tel: 0463-91-7865

就労継続支援
B型事業所 **つくし**

伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-92-7900

相談支援事業 **つくし相談室**

伊勢原市伊勢原3-5-7 Tel: 0463-73-6027

就労継続支援
B型事業所 **アトリエ ヴェルデ**

伊勢原市田中70-5 Tel: 0463-79-8181